

運動会練習を開始しました ~ 17日(土)校庭運動会に向けて ~

2日より特別日課スタート。校庭で、体育館で、元気な声が響いています。

◆ 体力の向上を図りましょう ◆

全力で走ったり、音楽に合わせて踊ったりすることは、健康のためにも、そして、脳の発達のためにも、必要なことです。家庭でも、お子さんの運動会の目標を聴き、励ましてあげてください。



全校ダンス

◆ 頼られる自分を意識しましょう ◆

運動会スローガン (児童会)

**仲間と全力 心をひとつに
みんなで輝け 運動会**

運動会のスローガンが決定しました。運動会の練習や当日の運営がスムーズにすすむためには、児童の皆さんの力が不可欠。特に高学年は、主体的に係活動・

練習にかかわってほしいと願っています。自分たちの手で運動会を成功させようとがんばり、自信を深めてくれることを期待しています。

◆ 「できないこともある」自分を知りましょう ◆

運動会が“憂うつ”という人もいないのではないのでしょうか？体を動かすことが得意でない。集団で行動することが苦手。大きな音が怖い。普段と違う日課だと不安…。いろいろな心配があります。全部がうまくできなくてもいい。家庭では、苦しいことでもがまんして、がんばっていることに対して、「今日もがんばったね」とほめてあげてください。



◆ 友達のことを認めましょう ◆

友達にも、精一杯やっても速く走れない、ダンスや組体操がうまくできないという人がいます。今できることと、できないことが、だれにでもあります。思い合い、助け合うことで、全員力で作り上げた競技・演技ができることを願っています。



9月よりお二人の介助員の先生（**田中亜紀先生**(右)、**五明良子先生**(左))にお勤めいただいています。よろしくお願いいいたします。これまでお世話になっていた下沢優美先生は、おめでたとなり、ご退職です。



子どもを叱ったときにかんしゃくを起こすことがあります。そういったときの対応に困っています。

叱った方は、自分の行為を反省し、それを改めようとしたり、素直に謝ったりすることを願っています。しかし、そうできずに、かんしゃくを起こすときの子どもの気持ちはどうでしょうか？

うまくやろうと思っているのに、自分の思うようにならない。叱られた意味がわからない。どうして叱られるのか、納得がいかない。悪いのは、自分ばかりではない。こうなったのには、わけがある。失敗を責められたくない。うるさく言わないでほしい。...



素直になれないのには、子どもなりの思いがあるから。しかし、それをうまく言葉で伝えられない子どももいます。また、いくら言っても、わかってはくれないと、これまでの経験から決めつけてしまっていることもあります。



感情の表現方法もコミュニケーションの仕方もうまくないために、**自分の感情を相手にうまく伝えられないストレスが、かん**

しゃくとなって現れるということはないでしょうか。

年齢とともに、自分の感情がうまく表現できるようになってくると、自然に少なくなっていくと思います。今できることとしては、**かんしゃくを起しそうなときは、うまく気分転換を**させてあげること。頭ごなしに問い詰めず、しばらく間を空けることで、叱る方も冷静になれます。



しかし、いけないことをしたとき、かんしゃくを起こしても、**ダメなものはダメと言わなければならないことも**あります。そんなときは、落ち着いたところで、がまんできたことをほめ、さらに「～をしたかったんだね」と受け入れてあげます。気持ちを受け入れてあげることで、安心感を与えてあげ



ることです。こうした経験の中で、いけないことは、泣いてさわりでもダメなことを学び、がまんすることも少しずつ学んでいきます。

発達障害のある場合は、「離れて見守り、無関心を装う」「長々と説教をしない」「かんしゃくの原因を排除する」等、こだわりを作り出さないための特有のかかわり方があるので、ご相談ください。